

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 10 月 3 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/3 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9m ³ /h	31.4	105.5 kPa abs	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m ³ /h	41.9	7.59 kPa g	A系： 0.04 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m ³ /h	41.5	0.24 kPa g	A系： 0.08 vol%
		給水系：約 1.8m ³ /h			B系： 0.11 vol%

*1:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況】

- ・H25/10/2 7:50 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ[10/1 7:00 時点]):気温 21.0℃、湿度 93.6%)
※プラント状況、モニタリングポストの指示値等異常なし。
- ・H25/10/3 7:55 頃 湯気をカメラにて確認できないことを確認。(気象データ[10/3 8:00 時点]):気温 24.4℃、湿度 68.2%)
※プラント状況、モニタリングポストの指示値等異常なし。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/3 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	26.0
2号機	循環冷却システム	停止中	31.0
3号機	循環冷却システム	運転中	24.9
4号機	循環冷却システム	運転中	30

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

- ・9/30 6:27~10/3 14:44 2号機使用済燃料プール代替冷却系について、同系統の瞬時電圧低下対策工事に伴い停止。起動時のプール水温は 31.5℃。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	9/24 9:56 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/24 10:22 ~ 移送実施中

7/16 13:00~ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエリアタンクへ移送を開始。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (10/3 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	C系ホット 試験実施中

*** フィルタの洗浄を適宜実施。**

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H25/8/8 12:55～ 6/15 に多核種除去設備A系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在A系で実施している腐食防止対策をB系でも実施するため、同設備B系を停止。
再発防止対策を実施した上で、C系は9/27にホット試験を開始。A系は10月中旬、B系は11月以降を目処にホット試験を再開予定。

<5. その他>

- 10/3 9:53 屋外にある6号機残留熱除去系海水ポンプDを定例の確認運転のため起動したところ、当該ポンプのモータを冷却する配管から海水が鉛筆の芯1本程度漏れいしていることを、同日9:57に当社社員が発見。当該ポンプを直ちに停止し、現在、漏れいは停止している。なお、原子炉の冷却は、残留熱除去系ポンプBおよび残留熱除去系海水ポンプBにて継続中。今後、原因を調査していく。
- 10/3 5号機廃棄物処理建屋の床ドレン収集ポンプ(各建屋内の床面の排水口に流入した水を浄化処理するために移送するためのポンプ)を起動したところ、当該ポンプ軸受を冷却する水の水受け部から排水口へ流す排水配管より水が漏れいしていることを、同日11:10に当社社員が発見。現在、当該ポンプは停止しており、排水配管からの漏れいは停止している。漏れい範囲は約1m×約1m×約0.5mm、漏れい量は約500mLで、堰内に留まっており、外部への影響は無い。今後、原因を調査していく。その後、堰内に溜まった漏れい水の分析を実施。コバルト60: 6.3×10^{-2} [Bq/cm³]、セシウム134: 検出限界値未満(検出限界値: 1.9×10^{-2} [Bq/cm³])、セシウム137: 検出限界値未満(検出限界値: 2.7×10^{-2} [Bq/cm³])。
- 10/3 3号機原子炉格納容器ガス管理システムのチャコールフィルタ・粒子状フィルタのサンプリングを実施。
- 10/3 3号機原子炉建屋上部において、ダストサンプリングを実施。
- 1号機建屋海側観測井1T-5について、新たに分析を実施(10/1採取)。トリチウム: 7,500[Bq/L]

【H4エリアタンクからの水の漏れい関連】

<トピックス>

- 9/17～18 漏れいの確認されたH4エリア I グループ No.5タンクのタンク底板部および側板1段目を除き解体。
- 9/19～ タンク内部の調査を実施中。

<最新のパトロール実績(10/2)>

- 高線量当量率箇所(β+γ線(70μm線量当量率))は確認されず。
- 目視点検によりタンク全数に漏れい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏れいを除く)を確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- 観測孔E-5(10/1採取)について、トリチウムの値が上昇傾向を示しており、2,400Bq/Lとなっている。
- 他については有意な変動はない。

<排水路・南放水口のサンプリング実績>

- C排水路35m盤出口(C-2)の全ベータについて、10/1の120 Bq/Lに対して、840 Bq/Lと上昇しているが、10/1のB排水路内の別地点で2,200 Bq/Lだったものが、90 Bq/Lに低下したこともあり、今後これらの上流からの影響も含めて、経過観察していく。
- 他については有意な変動はない。

- 10/2 12:20 頃 台風の影響によりH8南エリア(溶接型タンク設置エリア:RO濃縮塩水貯蔵)の堰内水位が上昇し、堰から溜まり水(雨水)が越えていることを、当社社員が確認。当該の堰からの溜まり水(雨水)の漏出量は、最大でも23m³と試算。当該堰内の溜まり水(雨水)については、同日13:09頃、H8エリアタンクへ移送を開始。当該堰内の溜まり水(雨水)の分析結果は、以下の通り。なお、前日(10/1)の当該溜まり水(雨水)の分析結果(全ベータ)は検出限界値未満(検出限界値:8 Bq/L)であることを確認している。

<H8南エリア堰内溜まり水(雨水)の分析結果>(10/2採取)

- 全ベータ:15 Bq/L(簡易測定による)
- セシウム134: 検出限界値未満(検出限界値:14 Bq/L)
- セシウム137: 検出限界値未満(検出限界値:19 Bq/L)

その後、H8南エリアの堰内溜まり水(雨水)の溢水と同様のタンクエリアがないか点検したところ、G3東エリア(タンクは溶接タイプ)において、雨水が堰の上面まで達しており、堰を超えた可能性が否定できないことから、同日19:50より、当該G3東エリア内のタンクへ堰内の溜まり水(雨水)の移送を

開始。G3東タンク堰内で採取した水の分析結果は以下の通り。

- <G3東タンク堰内溜まり水(雨水)の分析結果> (10/2 20:00 採取)
- ・全ベータ:検出限界値未満(検出限界値:8Bq/L)(簡易測定による)
- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:13 Bq/L)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:19 Bq/L)

・10/2 20:05 頃

福島第一原子力発電所B南エリアの堰内に溜まっていた水を処理するため、当該エリアにて作業を行っていた当社社員が、B南エリアタンク(BエリアAグループNo.5タンク)上部天板部から、鉛筆一本程度の滴下があることを確認した。当該タンク上部天板部から漏えいした水は堰内に滴下しているほか、当該タンク外周に設置されている点検用の足場を介して堰外へも滴下していることを 10/3 21:55 に確認。当該堰内に溜まっている水およびB南エリアタンク(BエリアAグループNo.5タンク)内の水の分析結果は以下の通り。

- <堰内に溜まっている水の分析結果> (10/2 15:00 採取)
- ・全ベータ:200,000 Bq/L(簡易測定による)
- ・セシウム 134:18Bq/L
- ・セシウム 137:54Bq/L
- <BエリアAグループNo.5タンク内の水の分析結果> (10/2 21:05 採取)
- ・全ベータ:580,000 Bq/L
- ・セシウム 134:24Bq/L
- ・セシウム 137:45Bq/L

当該タンク上部天板部から漏えいした水は、当該タンク近傍の側溝を通じてC排水路に流れ、海へ流出している可能性が否定できないことから、C排水路手前の側溝に土のうを設置し、止水処置を行った。止水処置を行った地点、当該タンク近傍の側溝とC排水路との合流地点および南放水口付近(※)の海水の分析結果は以下の通り。

(※)C排水路出口付近で、1~4号機放水口から南側約 330m地点(T-2)

- <C排水路手前の側溝に土嚢を設置し止水処置を行った地点の水の分析結果> (10/2 23:00 採取)
- ・全ベータ:5,200Bq/L
- ・セシウム 134:66Bq/L
- ・セシウム 137:170Bq/L
- <当該タンク近傍の側溝とC排水路との合流地点手前の水の分析結果> (10/2 23:10 採取)
- ・全ベータ:15,000Bq/L
- ・セシウム 134:120Bq/L
- ・セシウム 137:310Bq/L
- <南放水口付近の海水の分析結果> (10/3 7:00 採取)
- ・全ベータ:検出限界値未満(検出限界値:20Bq/L)
- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:1.5Bq/L)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:1.2Bq/L)

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1・2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は 10/3 0:00 時点で約 2,590m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・有意な変動なし。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- ・H25/7/1~ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。(有意な変動なし)
- ・H25/9/17~ 地下貯水槽 No.3 の浮き上がり対策として砕石盛土を実施中。なお、砕石盛土にあわせて、南西側ドレン孔からの地下水の排水を適宜実施。
- ・H25/10/3~ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。

以上